


令和4年度 公共事業事後評価調書

1. 事業説明シート

(区分) (国補) ・ 県単

事業名 農地整備事業 [畑地帯総合整備事業 (国補)]	事業箇所 南アルプス市有野・塩前 外	地区名 御勅使川沿岸	事業主体 山梨県												
(1) 事業着手年度 H21年度	(2) 事業期間 H21年度～H29年度	(3) 完了後経過年数 5年	(4) 総事業費 1,525百万円												
(5) 事業着手時点の課題・背景 本地区は南アルプス市北西部に位置し、すももを基幹作物とした農業が営まれている県内有数の果樹産地である。 しかしながら、本地区内の用排水路は老朽化による漏水が原因で農地に湿害が生じていた。また、農道は未舗装で幅員が狭く、農耕車のすれ違いが困難で、通作に支障をきたしていた。さらに、ほ場が狭小・不整形のため、栽培、出荷などの作業労力の負担が大きく効率性が悪いことから、後継者や担い手の確保に不安を抱えていた。 このため、用排水路、農道及び区画整理の整備を行い、農作業の効率化・省力化など、営農条件を改善することで、すももを中心とした果樹産地として維持・発展を図ることを目的に事業を実施した。		(8) 事業位置図等 													
(6) 事業着手時点で想定した整備目標・効果															
□主要目標 <ul style="list-style-type: none"> 農業生産力の向上 □副次目標 <ul style="list-style-type: none"> 農業用排水能力の向上 集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上 □副次効果 <ul style="list-style-type: none"> 果樹園景観の保全 															
(7) 整備内容 (目標達成の方法)															
事業量 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>・用排水路</td> <td>23路線</td> <td>L= 8,885 m</td> </tr> <tr> <td>・農道</td> <td>3路線</td> <td>L= 1,082 m</td> </tr> <tr> <td>・区画整理</td> <td>5箇所</td> <td>A= 17.0 ha</td> </tr> <tr> <td>・鳥獣害防止柵</td> <td>4路線</td> <td>L= 12,051 m</td> </tr> </table>				・用排水路	23路線	L= 8,885 m	・農道	3路線	L= 1,082 m	・区画整理	5箇所	A= 17.0 ha	・鳥獣害防止柵	4路線	L= 12,051 m
・用排水路	23路線	L= 8,885 m													
・農道	3路線	L= 1,082 m													
・区画整理	5箇所	A= 17.0 ha													
・鳥獣害防止柵	4路線	L= 12,051 m													

2.評価シート(1)

(1) 事業貢献度 〈(良)・不良〉

(理由)

当該地区において、用排水路、農道及び区画整理が整備されたことにより、農作物の生産性及び品質が向上した。また、農業者の維持管理の労力が軽減されるなど、営農条件が改善され、果樹農業の振興に大きく寄与している。

①主要目標 農業生産力の向上

指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等
面積当たり農業所得増加額	—	855千円/ha

□評価

- ・農業所得の増加額が評価基準値810千円/haを上回っている。

②副次目標 農業用排水能力の向上、集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上

指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等
施設老朽度	1.47	0.33 ※1
用排水能力向上率	1.00	1.17 ※2
全幅員4.0m以上道路延長率	0%	100% ※3

□評価

- ・施設整備により耐用年数が向上しており、老朽度は改善されている。
- ※1 (施設老朽度) = (使用年数: 10年) ÷ (既存施設の耐用年数: 30年) = 0.33 ≤ 1.00
- ・施設整備により通水能力が向上しており、用排水機能は改善されている。
- ※2 (用排水能力向上率) = (計画用排水能力: 0.331m³/s) ÷ (既存用排水能力: 0.282m³/s) = 1.17 ≥ 1.00
- ・改良が必要な農道1.1kmの全てを幅員4.0m以上に整備している。
- ※3 (全幅員4.0m以上道路延長率) = (対象路線の全幅員4.0m以上の区間延長: 1.1km) ÷ (対象路線の全体延長: 1.1km) = 100%

③副次効果

項目	内容
果樹園景観の保全	基盤整備により、果樹栽培が維持されることで、良好な景観が保全されている。

④その他の事業効果の発現状況

- ・本事業を契機に「塩前すももの里づくりの会」が立ち上がり、地域ぐるみで「安全・安心・おいしい」をスローガンに高品質なすももの生産に取り組んでいる。
- ・鳥獣害防止施設の整備により、農作物の被害が軽減され、安心できる営農環境が整われ、耕作者の営農意欲が向上した。

(2) 費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 〈(有)・無〉

項目		着手時点	事後評価時点
総事業費		1,300 百万円	1,525 百万円
工期		H21~H26	H21~H29
評価基準年		H20	R4
経済効率性	費用	2,040 百万円	2,442 百万円
	建設費	2,040 百万円	2,442 百万円
	便益	2,783 百万円	3,096 百万円
	作物生産効果	2,085 百万円	2,353 百万円
	走行経費節減効果	103 百万円	113 百万円
	品質向上効果	56 百万円	53 百万円
	その他	539 百万円	577 百万円
B/C		1.4	1.3

その他は、営農経費節減効果、維持管理費節減効果、被害防止効果
費用便益比(B/C)は1.0を超えており、経済効率性は確保されている。

(要因変化の分析)

- 総事業費: 用排水路の整備延長の増に伴う工事費の増額。
: 区画整理について、営農効率を高めるため換地計画を変更し、区画整理内道路の配置を見直したことに伴う工事費の増額。

(3) 事業実施による環境の変化

- ①自然環境への影響
なし
- ②生活・居住環境等への影響
なし
- ③環境保全対策の効果発現状況(措置を講じた場合)
なし

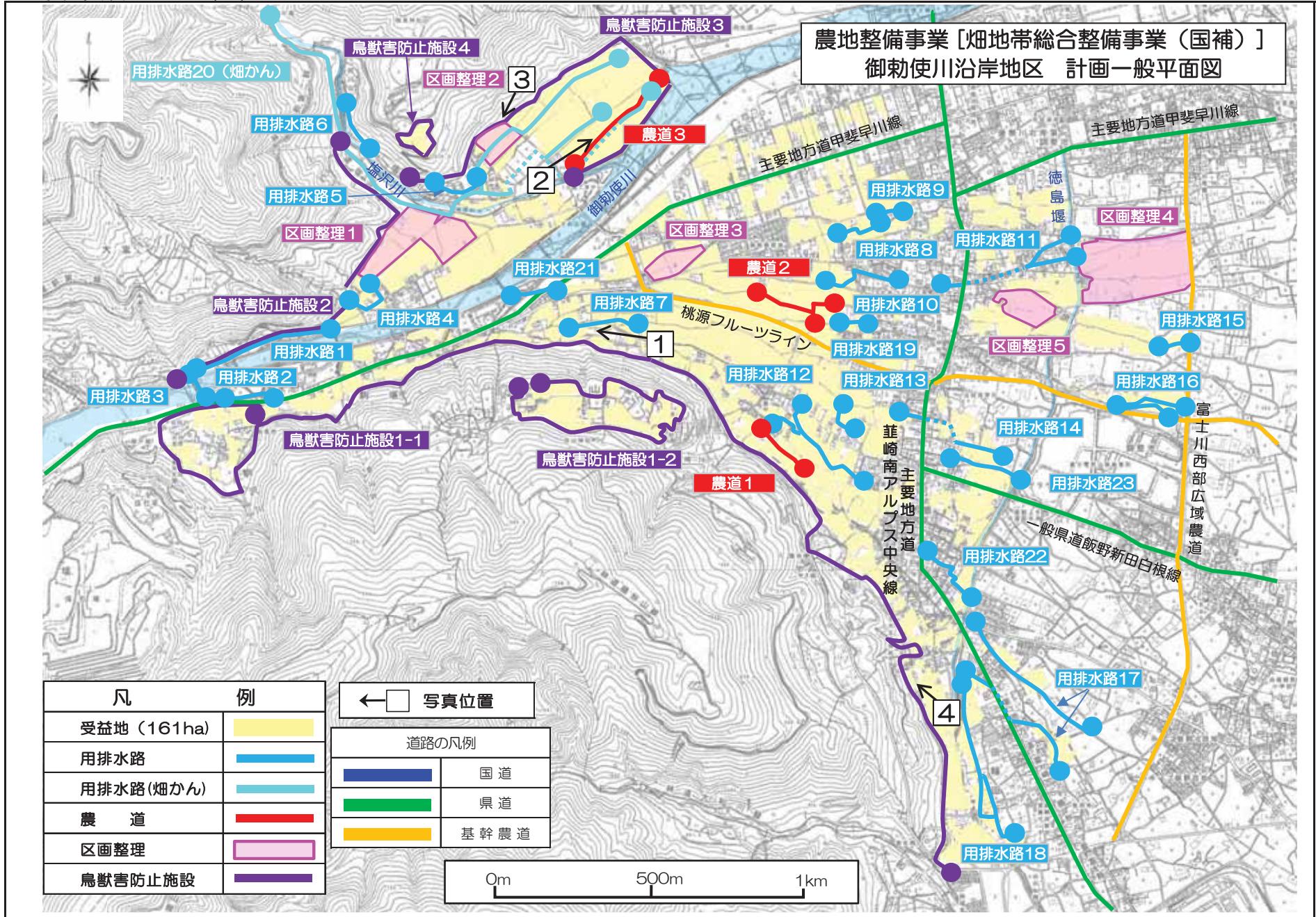
(4) 社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響

- ①社会経済状況の変化
なし
- ②関連計画・関連事業の状況の変化
なし
- ③事業環境等の変化
なし

評価シート(2)

<p>(5) 今後の事後評価の必要性 〈有・無〉</p> <p>(理由)</p> <p>用排水路の整備により、排水機能が向上し、安定した農作物が生産されている。また、農道の整備により、果樹等の荷傷みが防止され、通作や出荷の安全が確保された。</p> <p>用排水路、農道の整備と併せて、農地の区画整理を実施したことで、作業効率の良いほ場が形成され、安定的な生産が行われている。</p> <p>これらの整備により、担い手の耕作面積が約30haから36haに増加し、担い手農家を中心に高品質な果樹の生産が維持されている。また、地元組織による農地の管理体制も確立され、地域が一体となり高品質なすももの生産に取り組むなど、見込んでいた事業効果が発現されているため、今後の事後評価は必要ないと思われる。</p> <p>□「有」の場合の実施時期及び方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時期： 年度 ・方法： 	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈有・無〉</p> <p>(理由)</p> <p>なし</p> <p>(具体的反映策)</p> <p>なし</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 〈有・無〉</p> <p>(理由)</p> <p>なし</p> <p>(具体的反映策)</p> <p>なし</p> <p>(既に実施した改善策の内容と効果)</p> <p>なし</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 〈有・無〉</p> <p>(理由)</p> <p>なし</p> <p>(具体的反映策)</p> <p>なし</p> <p>(9) その他特筆すべき事項 〈有・無〉</p> <p>基盤整備により高品質な果樹の生産量が増加し、地区内の販売拠点である道の駅しらねへの安定した出荷が可能となり、道の駅には高品質な果樹を求める来訪者が増加傾向にある。</p>

3.添付資料シート(1)



3. 添付資料シート (2)

1 用排水路 7

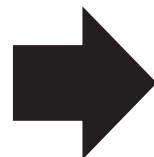


漏水状況

老朽化状況

事業前

- 用排水路の老朽化が進み、亀裂により漏水が生じており、隣接ほ場に湿害が生じていた。



事業後

- 用排水路の整備により、排水機能が向上し、果樹の生産が安定した。

2 農道 3



W=2.0m



W=4.0m

事業前

- 幅員が狭いため車両のすれ違いが困難であるとともに、未舗装であることから、果樹に荷傷みが発生していた。

事業後

- 農道の整備により、安全なすれ違いが可能となった。
- また、舗装により荷傷みが防止され果樹の品質が確保されている。
- 農道と合わせて畑かんを整備したことで、農道から直接の給水が可能となるとともに、安定的な用水供給が確保された。

3. 添付資料シート (3)

3 区画整理 2



(地区面積)
A=1.2ha
筆数：40筆

事業前

- 小区画で不整形なほ場で、作業条件が悪く農地の荒廃が進行していた。



(地区面積)
A=1.2ha
筆数：7筆

事業後

- 区画整理により、農地が集約化され、作業効率が向上した。



4 鳥獣害防止施設



事業前

- サルによる農作物被害により、耕作者の営農意欲の低下を招いていた。



事業後

- 鳥獣害防止施設の整備により、農作物の被害が軽減され、安心できる営農環境が整えられ、耕作者の営農意欲が向上した。

3.添付資料シート（4）

農産物直売所（道の駅しらね）



- 基盤整備により高品質な果樹の生産量が増加し、地区内の販売拠点である道の駅しらねへの安定した出荷が可能となり、道の駅には高品質な果樹を求める来訪者が増加傾向にある。

塩前すももの里づくりの会



- 本事業を契機に発足した「塩前すももの里づくりの会」は、草生栽培の導入や有機質肥料の使用など、環境にやさしい農業生産方式に取り組んでいる。



- 塩前すももの里づくりの会は「安全・安心・おいしい」をスローガンに南アルプス市で生まれ「世界一重いすもも」としてギネス認定された「貴陽」の生産に取り組んでいる。